

未来への教訓

復興！ 大津波の記憶を風化させない

平成30年(2018年)
～ 地元報道より ～

5月の出来事

南三陸町

3日南三陸町歌津地区の計仙麻大嶋神社と三嶋神社の復興記念大祭が午前9時から行なわれた。

東日本大震災から7年が過ぎ、高台移転での住宅再建、商店街の本設移転など復興が進んだこと、三陸道歌津IC供用開始を始め、歌津地区神社事務所が新築されたことなどを記念して、臨時開催された。

御輿が漁港や防集団地を巡回し、大量祈願や地区の安全などの所願成就を願った。

◆南三陸町志津川の荒島パークの一角に29日、南三陸子どもスタジアムがオープン。荒島パークは「荒島・楽天パーク」に名称が変わった。

◆県議会で選挙区の議員定数を巡る議論が本格化している。

検討委員会の正副委員長から、人口減少を踏まえ、議員定数59を維持しつつ、気仙沼・本吉の定数を3から2に削減する案が示された。復興途上にある被災地の首長から「当面は現状維持で」との意見も出ている。

◆南三陸町立伊里前小学校の3年生が、地元の伊里前川でシロウオについて学んだ。19人が参加し、総合的な学習で学んでいる「古里の自然」の一環で「ざわ」を使った伝統のシロウオ漁を体験した。

◆3日～5日まで南三陸町の復活潮騒まつりが、神割崎キャンプ場前駐車場で行なわれた。今回で5回目、採れたてのホヤの詰め放題(1回500円)が人気だった。

南三陸署は3日、志津川で工務店経営の夫婦が殺害された強盗殺人事件から16年を迎え、チラシを配布し情報提供を呼び掛けた。有力情報には謝礼金が支払われる。連絡先は46-3131まで。

◆南三陸町は7日、防集団地の空き区画について、3回目の一般向け3次募集を開始した。募集したのは、72区画で6月8日が締め切り。

◆気仙沼・本吉地方中学生庭球大会が、旧小泉中学校コートで6日開かれた。男子は階上、女子は志津川が優勝。

◆南三陸町の今季のサケ稚魚放流が4月末で終了。卵が不足したことで北上川と小泉川から合わせて約811万粒を移入、川を遡上する前の親魚から採卵(138万粒)で補い、合計1011万粒を確保し、目標の1千万粒を達成した。

◆南三陸消防署は、先月災害公営住宅で発生した火災を受け、防災を呼び掛けるチラシを作成。

町内の災害公営住宅8団地、706戸に配布する。

11日南三陸町志津川のあさひ幼稚園で、東日本大震災後から交流が続いている、静岡県富士宮市の認定こども園「ふじキッズ学園」の園児と共同製作した「友情のこいのぼり」が掲げられた。

こいのぼりは5匹で、3mの大きさにキッズ学園の年長91人とあさひ幼稚園の年長と年中25人の合わせて116人の似顔絵が、うろことして貼り付けられている。

◆気仙沼市本吉町と南三陸町歌津にまたがる田東山で、ヤマツツジが見頃を迎えた。12日には多くの観光客が山頂を訪れ、満開のツツジをバックに記念写真を撮ったり、山頂からの眺望を楽しんだりしていた。

◆南三陸町歌津伊里前地内の国道45号が伊里前地内で、復旧工事が始まることから切り替えする。切り替えは17日午後1時30分から。

◆南三陸町のハマレ歌津で13日午前10時から、シロウオを使った恒例の「伊里前しろうおまつり」が開かれた。来場者は「おどり食い」、「しろうおすくい」を楽しんだ。

ほかにも、シロウオのお吸い物、ホヤやワカメの詰め放題やマグロのカマ焼きなども人気だった。

15日南三陸町議会東日本大震災対策特別委員会は、3月定例会に提出された「高野会館」の保存に関する請願を審査し、審査継続することとした。

事前調査で、会館からアスベストが検出されたことも報告され、今回は請願者を参考人として呼ぶことにしている。

◆南三陸町でクマの目撃情報が8～15日の1週間で、足跡を含め3件寄せられている。1週間で3件の目撃情報は多いという。

◆南三陸町は老朽化している町立伊里前小学校体育館の建て替えに着手。1974年の完成から40年以上が経過していて、町教委によると町内の小・中学校体育館では最も古いものだという。

◆南三陸署とNTTドコモがスマホの正しい使い方を指導する教室を、18日志津川高校で開いた。悪質なサイトに繋がらないようにするフィルタリング設定や使用時間など正しいルールやマナーで使うことも促した。

南三陸町は新潟県魚沼市と災害時の相互応援協定を結んだ。町が他自治体と協定を結ぶのは8件目で、16日に魚沼市で調印式があった。

◆志津川高校の自然科学部の生徒らが20日、南三陸町志津川汐見町地内松原海岸で干潟観察を行ない、東日本大震災後の生態系の変化を把握することなどが目的。希少種を含む約40種を確認した。

◆南三陸町図書館で21日、チリ地震津波の被災当時の資料展が始まった。旧志津川町では312

戸が流出し、41人が犠牲となる大きな被害がでた。資料展は津波の恐ろしさと教訓を伝えるため、約50点を展示。

◆南三陸町立伊里前・名足両小学校の運動会で、南三陸消防署歌津出張所が協力し、バケツリレーや消火器の取り扱いなどを取り入れたユニークな競技が、19日行なわれた。

南三陸町で今月クマの目撃が相次いでいて、22日早朝午前5時20分ころ南三陸病院付近を歩いているクマ1頭を住民が見つけた。

現場付近は病院のほか町役場・総合体育館、災害公営住宅などがあり、防災無線で注意を呼び掛けた。

◆防災に対する意識を子供のころから高めるため、町内全校に少年消防クラブが発足した。

◆気仙沼・本吉地方に襲来したチリ地震津波から24日で、58年がたった。南三陸町では正午のサイレンに合わせて住民らが黙とうして、犠牲者の冥福を祈った。あらためて津波防災への教訓を胸に刻んだ。

◆気仙沼法人会の「社会貢献大賞」の表彰式が24日サンマリン気仙沼ホテル観洋で行なわれ、南三陸町歌津の伊里前契約会が最高賞の大賞を受賞した。

伊里前契約会は1693年に互助会として発足したことがはじまりで、伊里前しし舞を継承し、地域の家内安全や繁栄を祈願しつつけている。

県の3月末現在で行った高齢者人口の調査は、県全体の高齢化率が26.9%に対して南三陸町34.9%と11番目に高い。0.7ポイント上がったが、前年の8番目から11番目下がった。

◆南三陸町は本年度リサイクルセンター整備の基本構想を策定。

基本構想の策定業務委託料として、本年度当初予算に615万円を計上。クリーンセンターは1983年の稼働から30年以上が経過しているため老朽化している。

◆南三陸町志津川仮設魚市場特設会場で27日、志津川湾かき・ほやまつり福興市が開かれた。今回はカキとホヤをPRした。ホヤの詰め放題では、袋からあふれるほど詰め込む人もいた。

29日首都圏などの飲食店関係者が南三陸町を訪れた。特産のギンザケやカキの漁場を見学した。県内の農水産物をPRするため、生産地ツアーとして企画された。

◆南三陸町観光協会の総会が28日南三陸プラザで開かれた。

本年度は滞在型観光の促進などの強化。昨年度の実績は協会拠点の南三陸ポータルセンターへの来訪者は、前年度から半減した。

◆南三陸町立伊里前小学校のプールが完成。総事業費約1億2千万円で、6月6日に落成式が行われた。

志津川広報センターに残った被災前の風景(2)



2009年9月の志津川公民館での敬老会



八幡川の灯籠流し(8月20日頃)



志津川駅前大通りの志高仮装行列を見ようと父兄と町民が集まった。



今は無き、なつかしい旧庁舎